

◆ 練馬都税事務所長賞 ◆

「祖父の笑顔と税金」

練馬区立上石神井中学校 3年 小林 陸都

「本当に、助かるね。」

僕の祖父がよく口にしていた言葉です。僕の祖父は、がんが体に広がってしまい、以前で
きていた日常生活の色々な事が、時間の経過と共にどんどんとできなくなっていきました。
そのときに、利用し始めた介護保険で、訪問看護等を利用し、看護師さんにケアしていただ
いていました。祖父は大腸がんのためストーマという人工肛門を作ってもらいました。それ
は、肛門から排便できないため、人工的にお腹に作る排泄口のことです。祖父は体の変化に
戸惑いもあり、家で入浴することもためらうようになっていました。しかし、看護師さんに
「お風呂、はいれますよ。」

と、優しく励まし、介助してもらうことで、祖父も大好きだったお風呂に入るようになって、
笑顔も増えました。僕は、小学校から帰宅すると、お風呂から上がった祖父がいて、

「こうしてお風呂に入れてありがたいね。」

と話していたことを覚えています。あのときの介護保険も税金の一部で賄われていること
を知ったのは中学生になってからでした。母が介護保険に携わる仕事に就き、

「介護保険ってなに？」

と聞いた時に、教えてもらいました。他にも税金は、どのように使われているのだろうと
気になって調べてみました。僕が通っている中学校の椅子や黒板、机も税金が使われてい
ました。また、新型コロナウイルス感染症対策にも税金が使われていました。ワクチン接
種のみならず、流行時に学校に通学できない時のオンライン授業に使用したタブレットも
税金が使われていることを知りました。通学できない時に、世の中が変わっていくことへ
の不安の中で、オンラインで、慣れ親しんだ先生や友達顔をみたり、話すことができ、
とても安心したのを覚えています。税金は思っていたより遥かに身近なものであることが
分かりました。

僕達が安心して生活していくために必要な公的サービスのことを社会保障ということ
を学びました。祖父は亡くなってしまいましたが、病気になっても安心して生活できていた
のは税金の力が大きいと感じました。税と聞くと、負担に感じる人もいるかもしれません。
僕自身も消費税の分、お小遣いが減ってしまうなあと思っていましたが、税金がどのように使
われているのかを考えると、見方が違ってきました。税金のことを調べに行った図書館も税
金で建てられています。僕達の生活は税金で支えられていることが多いのです。

今後、病気になったり、年老いてからの生活のことも考えると、税金は欠かせません。
僕も、大人になって、働き始めてからも税金を正しく納め、微力ではありますが、誰もが
住みやすい社会のために貢献していきたいと思いました。税金は僕達の生活に必要不可欠
であることが分かりました。